

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 豊岡健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>平成29年度から、高齢者の低栄養予防に資する食環境の整備、啓発資材の作成、関係機関の連携強化を進めてきた。各市町においても、取組が進められているところである。</p> <p>一昨年度実施した地域高齢者が利用する配食や通所介護事業所等（小規模で、給食施設でない事業所）の食事提供の実態調査では、管理栄養士・栄養士未配置の施設において栄養管理上の課題があり、関係スタッフ向けに低栄養予防の啓発および技術的支援が必要と考えられた。また、新型コロナウイルス感染症の流行により、フレイルの悪化や、地域のサロン等での食事提供機会が減少することによる独居高齢者の孤食化が進んでいることが考えられる。</p>
今年度の推進方策	<p>(1) 各市町における高齢者の食支援体制整備 各市町の食支援体制整備に向けて必要な情報提供や支援を行う。</p> <p>(2) 配食事業者や通所介護事業所等への技術的支援 昨年度作成、配付した献立作成支援ツールの活用状況の把握等を行い、未活用施設については活用を促す。</p> <p>(3) 高齢者の食を支える支援者への啓発 高齢者サロン、家事援助ヘルパー等へフレイル、低栄養についての啓発を行う。</p>
成果	<p>(1) 管内各市町は高齢者の低栄養・フレイル予防対策を進めており、コロナ禍でも工夫しながら継続的な取組を実施している。2市町では保健事業と介護予防の一体的実施に取り組み、体重減少などをポイントとしたハリスカ者への対策も進めている状況が共有できた。</p> <p>(2) 昨年度作成した配食事業者や通所介護事業所向け献立作成支援ツールの活用状況は把握が不十分なため評価できない。</p> <p>(3) サロン等での会食が制限される中、弁当の配食による支援を実施する地域も出てくるなど新たな支援体制も生まれており、これらの支援者への啓発資材を作成した。</p>
今後の方向性	<p>計画最終年度の予定であったが、令和2,3年度と新型コロナウイルス感染症の流行により計画内容を大幅に変更しており、また、新型コロナウイルス感染症の流行による高齢者のフレイル化、フレイル悪化が懸念されていることから、引き続き高齢者のフレイル・低栄養対策に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none">・各市町でのフレイル・低栄養対策が効果的に実施されるよう情報共有等を行う。・献立作成支援ツールの活用状況の把握、評価を行う。・新型コロナウイルス感染症の流行による影響を把握するとともに、『新しい生活様式』等への対応について関係者と方策を検討し、連携して取り組む。

2 会議の開催状況

実施日時	3月（書面開催）
参集者 （団体数 及び人数）	各市町健康課 各市町社会福祉協議会 各市町いずみ会
協議内容	(1)各機関の今年度の取り組み状況 (2)県及び当所の取り組み状況
今後の 方策	各市町でのフレイル・低栄養対策が効果的に実施されるよう情報共有等を行うとともに、県の取り組みについても周知する。 また、健康福祉事務所の取り組み方策の検討、評価等を行う。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	食を通じた高齢者の低栄養・フレイル対策		
対象及び 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンお世話役 50名（欠席者には資料配布） シルバー人材センター研修受講者 15名 通所介護事業所 3ヶ所 飲食店 2ヶ所 		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	11月10日（水） 新温泉町健康福祉センター3 月8日（火） 新温泉町温泉支所 3月9日（水） 新温泉町他目的集会施設	支援者への低栄養・フレイルの啓発 ・シルバー人材センター家事援助スタッフ従事者研修会での資料配布 ・いきいきサロン交流研修会での講話 「高齢期を健やかに過ごすために～シェアはマボよりフレイル対策～」	美方郡シルバー人材センター 新温泉町社会福祉協議会 健康福祉事務所栄養士
	10月～12月	通所介護事業所向け献立作成支援ツールの評価 給食施設巡回指導時に活用状況を把握し、未配付施設への追加配付	健康福祉事務所栄養士
	10月～3月	献立作成支援ツール～お弁当編～の作成 新たに配食事業に協力する飲食店や団体向けに、昨年度作成した献立作成支援ツールを一部改編 次年度から配食事業に新たに協力する飲食店へ配付	健康福祉事務所栄養士
成 果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者サロン代表者へサロンでの低栄養・フレイルへの取組や感染対策をしながらの共食実施・再開に向けて講話を実施。参加者からは前向きに取り組むを考えたいとの声が得られた。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 献立作成支援ツールの活用状況<目標：配付施設での活用※、評価できない> ※献立作成時や栄養相談での活用事例の収集、支援者の意識の変化等調査できた施設が少なく評価できない 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 献立作成支援ツール（給食編・お弁当編）の普及、活用への支援 献立作成支援ツールの効果評価 		



令和3年度 健やか食育プロジェクト事業 食を通じた、高齢者の低栄養予防

豊岡健康福祉事務所

これまでの取組

当所では、食・栄養の視点から、高齢者に必要な支援の検討、食環境整備に取り組んでいます。

R1年調査結果から、地域高齢者に利用の多い**配食**や**通所介護事業所等**（小規模で給食施設でない施設）で提供される食事に、低栄養予防の視点が必要と考えられました。また、**給食ボランティア**や**サロン**でも低栄養予防を意識した運営ができれば、地域全体の底上げに繋がると考えました。

そこで、R2年度には、献立作成支援ツール『低栄養を予防する食事づくり』を作成し、配食事業者、通所介護事業所等へ配付しました。

今年度の取組

食育推進会議では、各地域のフレイル・低栄養に関する取組や、新型コロナウイルス感染症の流行による高齢者や地域活動に関する影響について情報共有しました。



食事や健康への関心が高まっている。
サロン活動や地域の行事が中止となった。



コロナ禍で集まれない分、見守り訪問や屋外の活動等新たな活動が生まれている。
交流やつながりの大切さを再認識。

《サロンでフレイル予防》

サロンお世話役の交流・研修会で、フレイル・低栄養についてお話ししました。



サロン活動はフレイル予防

栄養
食事改善
お口のケア

フレイル予防

運動
身体活動・運動

社会参加
趣味、ボランティア
散歩など

サロンで健康測定

感染対策しながら
サロンで共食

サロンで休養

サロンへ出かけよう



サロン、クラブ等で食事やお茶の機会が減り、孤食が増えた。

買い物頻度が減少した。



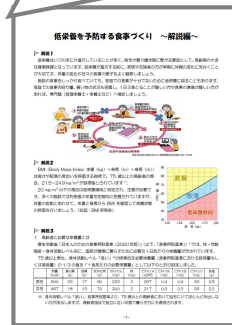
《家庭の食事内容の向上》

シルバー人材センターの家事援助スタッフ従事者研修会で、資料配布を行いました。

ステップ 1 低栄養リスクの確認
ステップ 2 献立作成の基本『主食・主菜・副菜』
ステップ 3 主材料の確保
の本編2ページと解説編4ページ



R2 年度作成『献立作成支援ツール』



こども食堂で配食による支援をされた。

配食事業に協力してもらえる飲食店が増えた。



《献立作成支援ツール～お弁当編～の作成》

R2 年度に作成した献立作成支援ツールをお弁当向けに内容を一部変更し、配付しました。



今後に向けて

食育推進会議では上記の以外に、『受診控え』、『外出、運動機会の減少』、『別居の子ども・孫との共食の減少』、『遠方の家族の帰省が減り、機能低下や認知症の悪化等に気付くのが遅れた』等感染症の流行による悪影響だけでなく、『家庭での食事機会が増え食育の取組がしやすくなった』、『顔をあわせる機会が減ったことで、電話やメール、SNS 等でのやりとりが増えた』等の報告もありました。引き続き、コロナ禍による高齢者のフレイル化・悪化の実態を関係機関と連携して共有するとともに、デジタル化など新たな手法も含めた取組方策を検討していきます。